

第18回 よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会 会議録	
日 時	令和6年12月19日(木) 9時30分～10時30分
開催場所	横浜市庁舎18階みなと4会議室
出席者	【委員 5名】岡村委員長、澤田委員、田口委員、蟹澤委員、米山委員
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者0名)
議題	1 令和5年度の事業実績及び6年度の取組について 2 次期事業(令和8年度以降)の方向性について 3 その他
議事要旨	
【はじめに】	
事務局	事務局よりあいさつ(健康福祉局 樋田健康推進部長) 委員の紹介 事務局・共同事業者の紹介 定足数の確認 委員5名全員が出席のため、定足数を満たし委員会が成立していることを確認
【議題1 令和5年度の事業実績及び6年度の取組について】	
事務局	資料1、資料2について説明
澤田委員	取組が順調に進んでいることを確認しました。令和6年度の取組で、スマートフォンを使用されない高齢者の方に対して歩数計の配布を継続しつつ、アプリに移行していくというのも大切なことです。一方、アプリでは高齢者に情報が届かなくなるという懸念があります。歩数計の新規利用者数は少なくなっているようですが、歩数計の申込者はほとんど高齢者なのか、3～5年みれば歩数計ユーザーの方もアプリに移行できる等、感覚で構わないので教えていただきたい。
事務局	体感的なところですが、歩数計ユーザーの多くは高齢者で、70代以降の方が多く感じています。地域の老人クラブなどで口コミを通じて事業を知って、申し込みされることもあります。そういう層には歩数計は一定程度のニーズがあると思っています。ただ、澤田委員のおっしゃる通り、歩数計の新規申込自体も減っており、また徐々にアプリを使える高齢者も増えてきていて、まさに今は移行期のようなところにあるのかなと感じています。
澤田委員	歩数計の配布をやめるタイミングはどのくらいのイメージで考えていますか。
事務局	歩数計の運用はしばらくの間継続しますが、システムの老朽化に加えて歩数計そのものの生産が終了していることから、長い間ずっと続けるということは現実的に難しい状況です。
澤田委員	円滑にアプリに移行していくことは非常に大きなポイントだと思います。検討を進めていただいて、周知の仕方は考えておくべきです。
岡村委員長	新規登録者の中で、アプリと歩数計の年齢構成を一つの判断材料にしながら、歩数計の継続支援について検討いただきたいと思います。

米山委員	年齢を重ねると、小さい文字を見ることが大変になります。デジタル媒体での周知も大切だと考えますが、一定程度は紙媒体などのアナログな周知も必要になってくると感じています。そのあたりも検討いただきたいと思います。
事務局	高齢者への情報発信については、すべてデジタル移行は難しいと考えていますので市の広報紙のような紙媒体の情報発信を含めて取り組んでいくべきと考えています。
蟹澤委員	歩数計の再購入になると実費負担が生じて手続きが面倒でどうしても遠ざかってしまう人もいます。アプリに移行できるかという点も少し難しい状況もあります。そのような方への良い知恵があれば教えていただきたい。
事務局	アプリでは無料でできますが、再度の歩数計を希望される方には、ご理解いただいた上で購入していただいています。
澤田委員	歩数計からアプリに移行するために、文字を大きく設定した高齢者に向けたものと普通のものの2つのバージョンがあると良いと思います。
田口委員	18歳から39歳の若い世代の参加登録者が少ないように感じます。子育て世代で忙しい時期である、この層への働きかけとしてSNSでの周知を予定しているということだが、他に検討していることがあれば教えていただきたい。
事務局	若い世代へのアプローチの強化と新規の登録者数を増やすために、若い世代に向けたSNS広告を打って、新規登録キャンペーンの取り組みを始めようとしています。働き世代はなかなか自身の健康を顧みる時間がない傾向もあるので、インセンティブを利用して、アプローチしていきたいと考えています。次期アプリについても、若い世代をターゲットに機能を拡充していきたいと思っています。
田口委員	健康日本21でも、ライフコースがキーワードになっているので若い世代へのアプローチも必要であると感じています。それに関連して、団体の取組事例では、現在の報告件数が4件ですが、報告件数を増やすための策はしていますか。
事務局	団体の取組事例については、ウォーキングポイントを積極的に扱っていただいている事業者がそこまで多くないことと、毎年募集している企画で、事例が出尽くしてしまっている状況があり、エントリーが少なくなっています。健康経営のメーリングリストなどの情報発信もうまく使いながらPRしていきたいと考えます。
田口委員	横浜は多くの企業があるので取組事例の増やし方について検討いただける良いと思いました。協会けんぽや健診機関との連携もできると良いと思います。
米山委員	18歳～39歳への世代のアプローチで、18歳は人生の大きな節目でもあります。成人式でチラシ配布したり、大学入学や高校卒業などの節目にも周知できる機会があると良い考えます。
事務局	現在は実施していませんが、検討していきたいと思っています。
澤田委員	新規登録者の促進も大切ですが、一度は事業に関心を持っていただいた既存の登録者への掘り起こしも大切だと考えています。次期事業にもつながる部分ではあると思いますが、マスコミに取り上げられることも掘り起こしの大きな要因になります。「よこはまウォーキングポイント」の事業名称は知名度があるので、それを利用してマスコミに取り上げてもらえる機会があると良いと思います。事業名は継続性

	があり、既存の事業が進化・バージョンアップしたことがわかるようなものであると、一度は事業に関心を寄せてもらった人たちにも、再度の呼び込みも効果が高いと感じます。
事務局	「よこはまウォーキングポイント」の名称は知名度があると私たちも感じているので、なるべくこの名前にプラスアルファが付くような、名称にしたいと思っています。現在7万人にご利用いただいていますので、その方たちがスムーズに移行できるような形でキャンペーンを行っていきたいと思っています。
<b>【議題2 次期事業（令和8年度以降）の方向性について】</b>	
事務局	資料3について説明
澤田委員	さきほどデモンストレーションで見せていただいたアプリの文字は少し小さいように感じたが、高齢者でも見やすいようなアプリの導入ができますか。
事務局	一つ目のアプリは健康保険組合向けのもので現役世代を対象に作られています。逆に二つ目にお示ししたものは、行政向けに作られています。次期アプリは設計を極力シンプルなものにしたいと考えています。
澤田委員	開発費の問題もあるが、小さな字が見えにくい方への配慮の一方、情報が詳しくほしい方もいるので、アプリは2パターンあると良いと感じました。
岡村委員長	1つのアプリに多くの機能を載せるのではなく、まずは、歩数だけを確認できるものを作って、多機能なものに切り替えられると良いと思います。多機能かつ複雑であると入口から抵抗感がある人がいるので、誰一人取り残されないことにつなげるために、歩数計の代わりになるものを、すぐに始められる設計で作りと、慣れてきたらバージョンアップしていくのが良いと考えます。
澤田委員	次期アプリが、「データ活用型健康推進アプリ」ということで、現在の機能の拡充と考えていますが、健康無関心層に限らず、すべての人に取り組んでいただくようアプローチして欲しいです。 アプリ設計の際に、シンプルなものであればABテストができるので活用を検討して欲しいと思います。また、エビデンスベースの設計をして、可能であれば、研究までつながるように検討していただきたいです。
岡村委員長	エビデンスをどこからもってくるかということが課題となっています。また、事業の移行をどのようにできるかということも重要になってきます。
米山委員	アプリはシンプルということがダウンロードすることの条件です。食事内容や血圧の入力などは、時間と心の余裕がないとたどり着けない部分です。高齢者の方にも使っていただくには、シンプルが一番で、そこに機能を追加させてほしいと思います。
岡村委員長	このような健康管理機能がついたものは、診療や保健指導に来た人に案内できると受け入れやすいと思います。また、入口はシンプルで、使いこんでいくと色々な機能が付いてくる方が、使ってみようという気持ちになります。
田口委員	誰一人取り残さないという話ではありましたが、どのような方がアプリを使うかということを見ると、意識の高い人は課金をして自分に合ったアプリを使っていくので、少し健康に関心のある層がメインターゲットになってくると感じます。その

	<p>ような意味では、アプリのオプションの部分は少しターゲットを絞って設計していても良いと考えます。現在デジタルに弱い高齢層も、長期的な目線でみれば、解消されていくと考えれば、長期的なスパンで開発していけると良いと思います。大企業だと、健康経営の取組みで健康アプリを独自で契約して使用しているところもあります。中小企業などの方へ、健診や保健指導の場で紹介してもらったり、実際の保健指導で使っていくなどアドバンスな形で活用できるのも有益だと思いました。</p>
事務局	<p>まさにその通りだと思っています。今、ご利用の高齢の方にも極力使っていただくような仕様にはしたいと思っていますが、一方である程度アプリを使える方をメインターゲットにしていかざるを得ないとも思っています。また、アナログしか対応できない方にも何かしらかの対応をしていきたいと考えています。</p>
岡村委員長	<p>誰一人取り残さないことは、どこで整合性をつけていくかということになるかと思っていますので、充分考えていただきたいと思っています。</p>
<p><b>【議題3 その他】</b></p>	
事務局	<p>本日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。貴重なご意見をいただいたと思っています。今後の事業の検討材料とさせていただきたいと思っております。</p>
岡村委員長	<p>それでは以上をもちまして第18回よこはまウォーキングポイント共同事業者選定委員会を終了したいと思います。皆様お疲れ様でした。</p>

以上